

## 研究概要

### <研究主題>

# 自他ともに大切に作る児童生徒の育成

～小中9年間を見通した道徳科の授業づくりと評価を通して～

## 1 本校区の特徴

### <推進地域の概要>

推進地域名	江田島地域		
推進校名	校長名	児童生徒数	備考
江田島市立江田島中学校	喜多村 昭宏	141	センター校
江田島市立切串小学校	佐々木 博康	54	
江田島市立江田島小学校	加藤 靖則	229	

江田島中学校区は、江田島市の北東に位置し、2小学校（切串小学校、江田島小学校）と1中学校（江田島中学校）からなる。学校教育目標を、切串小学校は「健やかに学び合う子」、江田島小学校は「自ら考え、ともに伸びようとする児童の育成」、江田島中学校は「健康で豊かな心と学力を身につけた実践力のある生徒の育成」としている。本校区の2小学校から中学校はそれぞれ3km～6km程度離れた場所に位置している。

平成29、30年度には、「道徳教育改善・充実」総合対策事業メニュー3の指定を受け、地域との連携、道徳教育と体験活動と関連付け、児童生徒の資質・能力の育成と目指す子供像の実現に向けた実践研究を行った結果、一定の成果が見られた。成果は大きく2つある。1つ目は児童生徒のアンケート結果における、思いやりの項目「人が困っているときは進んで助けようと思う」の数値が向上したことである。体験活動と関連付けた道徳教育を積み重ねた結果、その行動は難しいと感じながらも、やはり行動すべきだと考えられる児童生徒が増えた。2つ目は社会参加に関する意識の高まりである。自由参加のボランティア活動への参加率が向上した。児童生徒同士で声をかけあって参加していることが多く、仲間と一緒に行動するには意欲的に参加している。また、昨年7月の豪雨災害の際には、本校区も大きな被害を受けたが、「自分に何かできることはないか」と考え、行動する児童生徒の姿が多く見られた。これまでの道徳教育と体験活動を関連付けた取組が、日常の生活場面で生かされたと考えられる。

## 2 本校区の現状と課題

今年度、本校区の児童生徒は落ち着いて学校生活を過ごしている。4月実施の道徳アンケートにおいて、「人の気持ちがわかる人になりたいと思う」、「相手のことを思いやり、親切にしている」の質問項目について肯定的に回答した児童生徒の割合は、95.6%であった。しかし、実際の学校生活においては、「人の失敗を笑う」、「自分のことばかり考え、人に協力しようとしなない」など、他者を思いやる心、協力し合う態度に課題が見られる。また、「自分のよさは周りの人から認められていると思う」については82%、「自分にはよいところがある」については87%の児童生徒が肯定的な回答をしている。

「自分にはよいところがある」の項目について、5年間の推移を見てみると、いずれも80%台で、今年度は87%と年々高まってきているが、他の「よいことと悪いことを判断し、自分が正しいと思ったことを行っている」、「学校のきまりを守っている」などの項目の数値と比べるとまだ低い。

以上のことから、本校区の児童生徒には、自己肯定感や実際の生活の中での他者への思いやりに課題があることが分かった。

また、本校区の教職員は、児童生徒の道徳性を養うためには道徳科授業が重要であり、充実させたいと考えている。しかし、授業改善のための情報が不十分で、授業改善の手立てが分からないといった課題がある。

これらの課題を踏まえ、小中9年間の道徳科の指導目標や内容項目の明確化、自分の考えを明確にした上で、友達と話し合い、自己の考えを深めていく授業展開の実践、組織的な授業改善が必要である。

### 3 取組目標

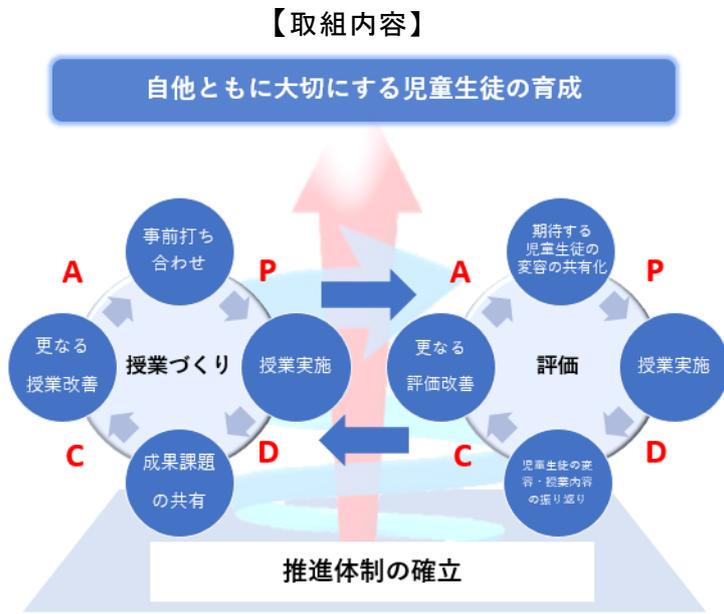
- 「自他ともに大切にする児童生徒の育成」を目指し、小中9年間で一貫性、系統性ある道徳教育を実践する。
- 本取組の成果を研究会・研修会等で、江田島市内及び広島県西部教育事務所管内、更には広島県内全域に広め、道徳教育の改善・充実と推進に寄与する。

### 4 取組内容

「道徳教育改善・充実」総合対策事業（メニュー2）指定校として、本校区の現状と課題を踏まえ、取組目標を達成するため、児童生徒が授業で互いに関わり合い、自分も他者も大切にできる児童生徒の育成に向けて取組を進めるとともに、教職員の授業力向上を目指し、小中連携による発達段階を踏まえた授業の実践研究を通して、道徳教育を推進する。

本年度は、研究主題を「自他ともに大切にする児童生徒の育成～小中9年間を見通した道徳科の授業づくりと評価を通して～」と設定し、3つの取組を進めていく。

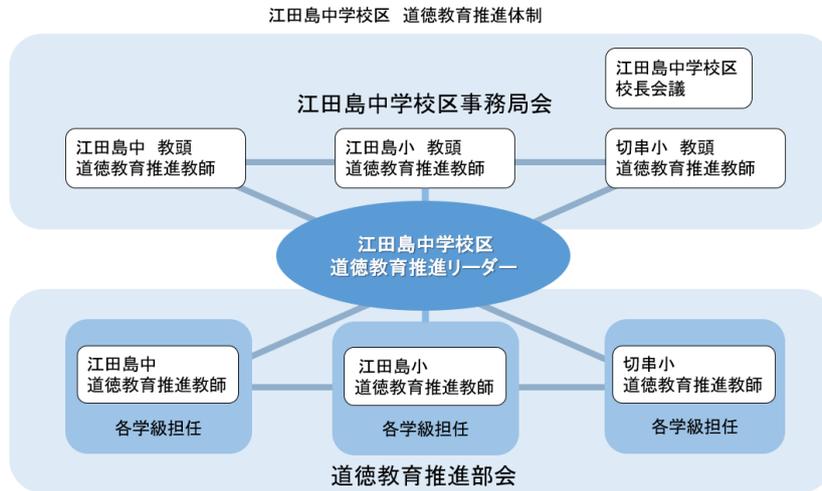
- (1) 小中で一貫した道徳教育推進体制の確立【推進体制の確立】
- (2) 「道徳科」の指導の充実【授業づくり】
- (3) 「道徳科」の評価の在り方【評価】



## 5 取組の検証方法

- (1) 教職員・児童生徒アンケート（年2回）
- (2) 道徳科における児童生徒の発言や道徳ノート，ワークシートへの記述
- (3) 公開研究会を開催し，児童生徒の学ぶ姿と取組状況について共有・分析

## 6 推進体制



## 7 推進構成メンバー

所属 職	氏 名	備 考
江田島中学校 校長	喜多村 昭宏	センター校代表者
切串小学校 校長	佐々木 博康	推進校長
江田島小学校 校長	加藤 靖則	推進校長
江田島中学校 教頭	西田 和弘	センター校教頭
切串小学校 教頭	内藤 慎哉	教頭
江田島小学校 教頭	武川 由美	教頭
江田島中学校 教諭	川中 健太	道徳教育推進教師 (推進リーダー)
切串小学校 教諭	埜本 美紀	道徳教育推進教師
江田島小学校 教諭	杉井 友子	道徳教育推進教師
江田島市教育委員会 主任指導主事	河野 諭恵	

## 取組の実際

- (1) 小中で一貫した道徳教育推進体制の確立【推進体制の確立】
- (2) 「道徳科」の指導の充実【授業づくり】
- (3) 「道徳科」の評価の在り方【評価】

### (1) 小中で一貫した道徳教育推進体制の確立【推進体制の確立】

#### ■推進体制づくり

##### ○指導案検討会・模擬授業

教職員同士の取組を共有するため、学年団（中学校）あるいは学校全体（小学校）で研究授業前に実施



##### ○小中合同研修会

教職員の道徳科授業を充実させようとする意欲向上や知見を深めるため、大学教授を招いた研修を年間7回開催



##### ○道徳参観日

地域や保護者の方に道徳科授業の様子を知っていただくため、各小中学校において、年間1回ずつ開催

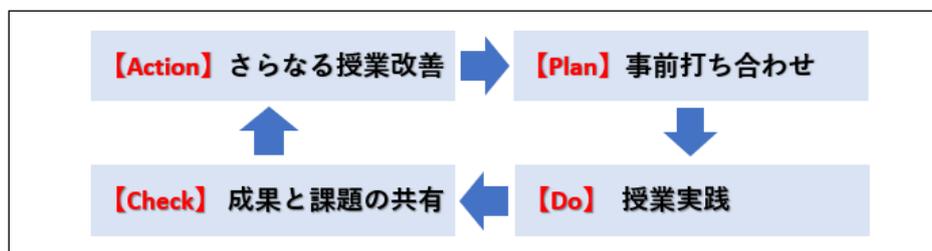


##### ○事務局会

各小中学校の教頭と道徳教育推進教師で、研究の取組経過を共有

(2) 「道徳科」の指導の充実【授業づくり】

校区全体で授業の質を高めるためには個々の教職員の力に任せるのではなく、授業改善の手法について体系化することが必要である。以下は、校区全体で組織的に授業改善を実現するためのPDCAサイクルである。このサイクルを回すことによって、校区全体の授業の質をスパイラルアップさせていく。



■ P l a n ～事前準備・打ち合わせ～

- ねらいの確認
- 主題，教材解釈
- 発問の検討（中心発問，基本発問，補助発問）
  - ・児童生徒の実態に合っているか？
  - ・自分の事として考えられるものになっているか？
  - ・多様な価値観や考え方が出るものになっているか？
  - ・問い方の確認（発達段階に合わせて）
- 話合いの検討
  - ①ペア（2人）対話



事前打ち合わせの様子



いつ，どんな場面で仕組む？

- ・意見を対比して考えさせたい場面
- ・短時間で発想の質を高めたい場面
- ・多面的な思考を引き出したい場面
- ・自分の考えに自信を持たせたい場面

②グループ（3～5人）対話



いつ，どんな場面で仕組む？

- ・多くの意見や考えをグループで共有，議論することで児童生徒の考えを深めたり広げたりさせたい場面

○T1/T2の役割の明確化

①T1：授業全体のリード

②T2：T1と連携して道徳的価値を深めるための意図的指名に繋ぐファシリテーター役，問い返しで深める，自分の考えを書くことに支援を要する児童生徒への机間指導時の声掛け，板書など



○児童生徒の反応の予想と問い返し発問の想定

○授業タイムスケジュールの確認（中心発問を授業開始後20分以内に行う）

○道徳ノートの活用場面や方法の検討

○指導案フォーマットの統一

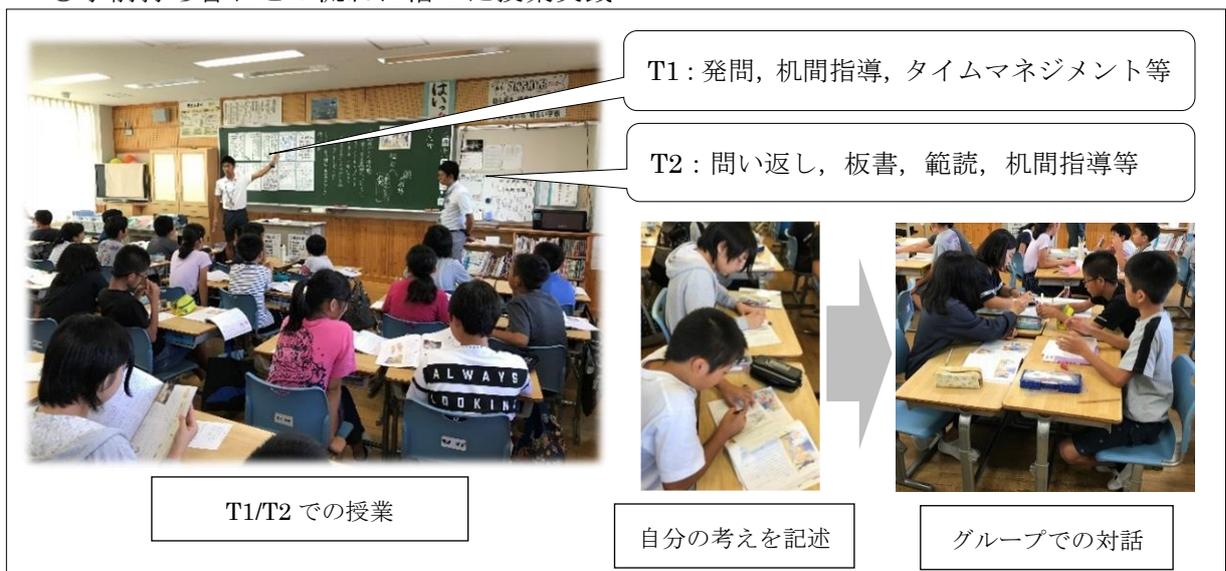
①実施授業における内容項目の各発達段階における指導目標の明確化

②発問の視点の明確化（つなぐ・ひろげる・深める）

③期待する児童生徒の変容（Beforeの姿とAfterの姿）の明確化

■Do～授業実践～

○事前打ち合わせの流れに沿った授業実践



■ Check～成果と課題の共有～

○成果と課題の共有

- ・授業後、T1/T2で成果と課題を共有、振り返りシートへの記録

江田島中学校 2年2組		【振り返りシート】	
① 日時	令和元年 7月 11日(木) 第(5)校時		
② 学校・学年・組	江田島中学校・2年・2組		
③ 主題名	自己を見つめる	内容項目	A-3 向上心、個性の伸長
④ 教材名	「自分」ってなんだろう	出典	中学道徳 あすを生きる2
⑤ 本時のねらい	他者との関わりの中で、これまで気づけなかった自分自身のよさや個性に気づくことを通して、これからの人生を自分らしく生きようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。		
⑥ 学習指導過程	主な発問記録です。 ○隣の人のよい所はどこな所だと思いますか。 ○宝石ってどんなイメージですか。 ○「そのままで宝石だ」とはどういうことだと思いますか。 ○自分の短所はどこなところですか。 ○自分が宝石になるために、みんなはどんな努力をしていますか。 ○一時間で考えたことや感じたことはどんなことですか。		
⑦ 推進リーダー 教師のかかわり	板書、範読。		
⑧ 成果	導入で、隣の人の良いところを伝え合うペアでの対話を仕組みことで、自分の短所を素直に出す雰囲気をつくることができた。 展開では、リフレーミングの際に、教師がまず短所を例示することで、生徒も安心して短所を出すことができていた。班での話し合いでは、生徒同士がよく対話し、自分の新たなよさを発見できた生徒も多かった。		
⑨ 課題	T2 が切り返しの発問を準備していたが、出すことができなかった。もっと前に出る姿勢を大切にしたい。終末で道徳ノートに書かせたことを学級で共有し、振り返る時間が取れなかった。発問や活動の精選が必要である。		
⑩ 今後に向けて	発達段階を踏まえた授業という視点で共通したものを作れていない。(共通認識ができていない)ので、具体化していく必要がある。		

重点項目の振り返り

T1/T2 で成果  
課題の共有化

・道徳通信による、効果的な指導方法の共有

【授業の要点を掲示】

■授業での学びを生活に生かすための取組

授業で学んだことを教室掲示することで、授業で学んだことを学校生活の中でも振り返られるようにしています。要望があれば作ります。ぜひ活用していただければと思います。

左から小1、小6、中2で実際に作った掲示です。

■ Action～さらなる授業改善～

○課題を意識しての授業改善

切串小学校 5年1組 (12月10日)

主 題 名 温かな思い (B-7 親切, 思いやり) 教 材 名 「くずれ落ちただんボール箱」

⑦ 推進リーダー 教師のかかわり	板書, 範読, 机間指導。
⑧ 成 果	導入で, 児童からすぐには意見が出なかったが, 粘り強く待ち, 意見を出させることができた。終末では, 導入に立ち返ることで, 口頭ではあったが, 1時間の学びを確認することができた。 準備していた問い返しの発問で価値を深めていくことができた。
⑨ 課 題	意図的指名をする場合には, 児童の実態を把握しておく必要があることを確認した。範読の際に, 124ページの16行目で分割することで, 状況を整理して中心発問につなげることができた。ただ, ねらいとする価値により迫る補助発問につなげるために, 分割する箇所を検討する余地があるのではないか。

<授業改善のポイント>

- ・課題を共有したうえで, 授業展開を練る。
- ・T1/T2の連携により, ねらいに迫るための問い返しの発問を準備しておく。

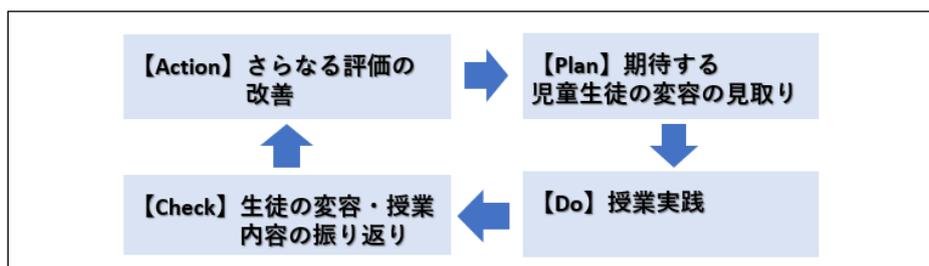
江田島小学校 5年2組 (12月17日)

主 題 名 温かな思い (B-7 親切, 思いやり) 教 材 名 「くずれ落ちただんボール箱」

⑦ 推進リーダー 教師のかかわり	板書, 範読, 机間指導。
⑧ 成 果	おばあさんや店員から感謝される前で分割して範読することで, 「親切は誰かに褒められるためにするのか」を考えさせることができた。 店員に叱られることが分かっていた場合に, おばあさんを助けるか, 助けられないか, ネームプレートを用いて児童の考えを明確にすることができた。 準備していた問い返しの発問でねらいとする価値に迫ることができた。
⑨ 課 題	ねらいとする価値に迫ることはできたが, そこからさらに深めていくことができなかった。 親切をされた側の対応の大切さについても考えさせたかったが, 時間が取れなかった。中心発問までをテンポよく進める必要があった。

授業の質の  
スパイラルアップへ

(3) 「道徳科」の評価の在り方【評価】



■ P l a n ～期待する児童生徒の変容の見取り～

○期待する児童生徒の Before・After を指導案へ明記

切串小学校 4年1組

主 題 名 ほんとうの親切 (B-6 親切, 思いやり)

教 材 名 「心と心のあくしゅ」(第4学年)

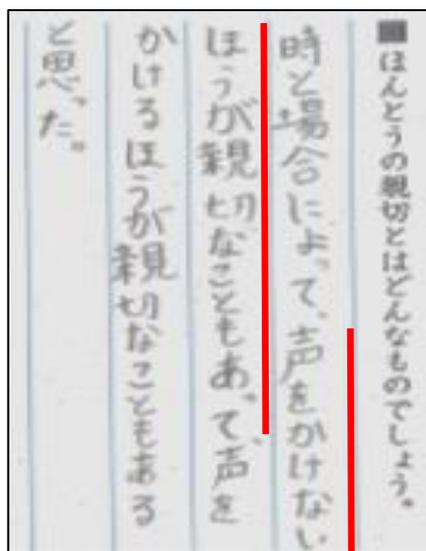
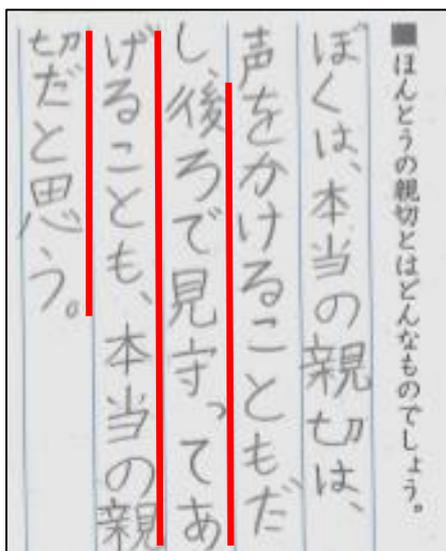
【期待する児童生徒の変容】

Before	After
<p>本当の親切とは・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っているみたいだから、声をかけようかな。</li> <li>・分からないなら、教えてあげよう。</li> <li>・すぐに助けてあげよう。</li> </ul>	<p>本当の親切とは・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何かしてあげることだけが親切だというわけではない。</li> <li>・相手の気持ちを考え、自分にできることを行うことが親切なんだ。</li> <li>・相手のことを考え、何もしないことも親切なんだな。</li> </ul>

■ D o ～授業実践～

■ C h e c k ～児童生徒の変容・授業内容の振り返り～

○道徳ノートやワークシートへの児童生徒の記述を活用し「主題を深めることができるか」という視点の評価



■ A c t i o n ～さらなる評価の改善～

## 研究経過

### 【4月9日（火）】第1回江田島中学校区事務局会

本事業の指定を受けている学校の校長及び道德教育推進リーダーが出席し、小中学校における道德科授業の質の向上を目的とした校区の体制について方針の共有化を行った。

### 【5月8日（水）】第1回小中合同研修

江田島市立切串小学校 第5学年 指導者 教諭 埴本 美紀  
主 題 名 相手のための親切（B-7 親切，思いやり）  
教 材 名 「やさしいユウちゃん」  
指導助言 広島大学大学院教育学研究科 教授 宮里 智恵 先生

### 【6月5日（水）】第2回江田島中学校区事務局会

本事業の指定を受けている学校の教頭及び道德教育推進教師が出席し、本校区研究推進計画の共有化や意見交流，今後の予定の確認を行った。

### 【6月19日（水）】第2回小中合同研修

江田島市立江田島中学校 第3学年 指導者 教諭 大竹 勇毅  
教諭 川中 健太  
主 題 名 本当の友情とは（B-8 友情，信頼）  
教 材 名 「違うんだよ，健司」  
指導講話 江田島市立切串小学校 校長 佐々木 博康 先生

### 【6月24日（月）】第3回小中合同研修

江田島市立切串小学校 第2学年 指導者 教諭 松岡 久恵  
主 題 名 みんな ともだち（B-10 友情，信頼）  
教 材 名 「およげない りすさん」  
指導助言 広島大学大学院教育学研究科 教授 宮里 智恵 先生

江田島市立切串小学校 第4学年 指導者 教諭 堀内 良治  
主 題 名 ほんとうの親切（B-6 親切，思いやり）  
教 材 名 「心と心のあく手」  
指導助言 広島大学大学院教育学研究科 教授 宮里 智恵 先生

【7月11日（木）】第4回小中合同研修

江田島市立江田島中学校 第2学年2組 指導者 教諭 堂中 典子  
教諭 川中 健太

主 題 名 自己を見つめる（A-3 向上心，個性の伸長）

教 材 名 「「自分」ってなんだろう」

指導講話 広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 大橋美代子 様

【9月12日（木）】第5回小中合同研修

江田島市立江田島中学校 第1学年2組 指導者 教諭 山本 静香  
教諭 川中 健太

主 題 名 互いを認め合う（B-9 相互理解，寛容）

教 材 名 「自分だけ「余り」になってしまう……」

指導講話 広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 大橋美代子 様

【10月28日（月）】第6回小中合同研修

江田島市立切串小学校 第3学年 指導者 教諭 天野 航平

主 題 名 相手とわかり合って（B-10 相互理解，寛容）

教 材 名 「心をしずめて」

指導助言 広島大学大学院教育学研究科 教授 宮里 智恵 先生

江田島市立切串小学校 第5学年 指導者 教諭 埴本 美紀

主 題 名 ほんとうの自由（A-1 自由と責任）

教 材 名 「うばわれた自由」

指導助言 広島大学大学院教育学研究科 教授 宮里 智恵 先生

【11月18日（月）】第7回小中合同研修

江田島市立切串小学校 第3学年 指導者 教諭 住本 真弓

主 題 名 みんな なかよく（B-10 友情，信頼）

教 材 名 「二わのことり」

指導助言 広島大学大学院教育学研究科 教授 宮里 智恵 先生

江田島市立切串小学校 第6学年 指導者 教諭 吉弘 優衣

主 題 名 深い思いやり（B-7 親切，思いやり）

教 材 名 「最後のおくり物」

指導助言 広島大学大学院教育学研究科 教授 宮里 智恵 先生

【11月27日（水）】第8回小中合同研修

江田島市立江田島小学校 第5学年2組 指導者 教諭 佐々木 亮  
教諭 川中 健太

主 題 名 相手の立場も大切に（B-11 相互理解，寛容）

教 材 名 「すれちがい」

指導講話 広島大学大学院教育学研究科 教授 宮里 智恵 先生

【12月18日（水）】広島県道徳教育実践研究委員会

江田島市立切串小学校 第1学年 指導者 教諭 住本 真弓

主 題 名 ともだちと たすけあって（B-9 友情，信頼）

教 材 名 「ゆっきとやっち」

指導講話 畿央大学大学院教育学研究科 教授 島 恒生 先生

江田島市立切串小学校 第4学年 指導者 教諭 堀内 良治

教諭 川中 健太

主 題 名 しんらいし合える友達（B-10 友情，信頼）

教 材 名 「いのりの手」

指導講話 畿央大学大学院教育学研究科 教授 島 恒生 先生

【12月24日（火）】学習指導案検討会

広島大学大学院教育学研究科 教授 宮里 智恵 先生から，研究発表会  
当日の学習指導案について指導・助言を受ける。

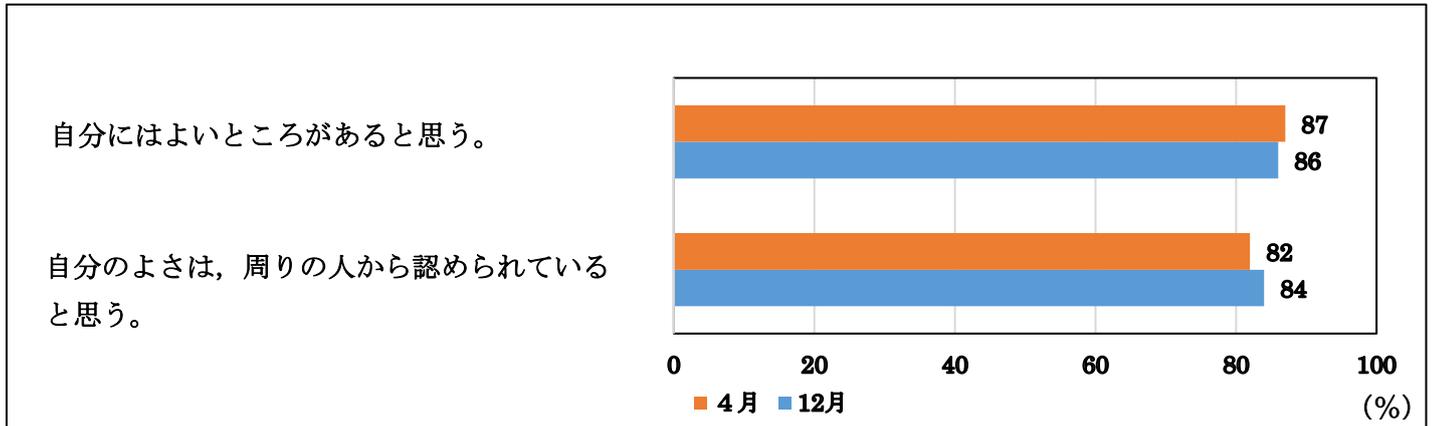
【1月31日（金）】江田島市立江田島中学校区「道徳教育改善・充実」総合対策事業研究発表会

## 取組の検証

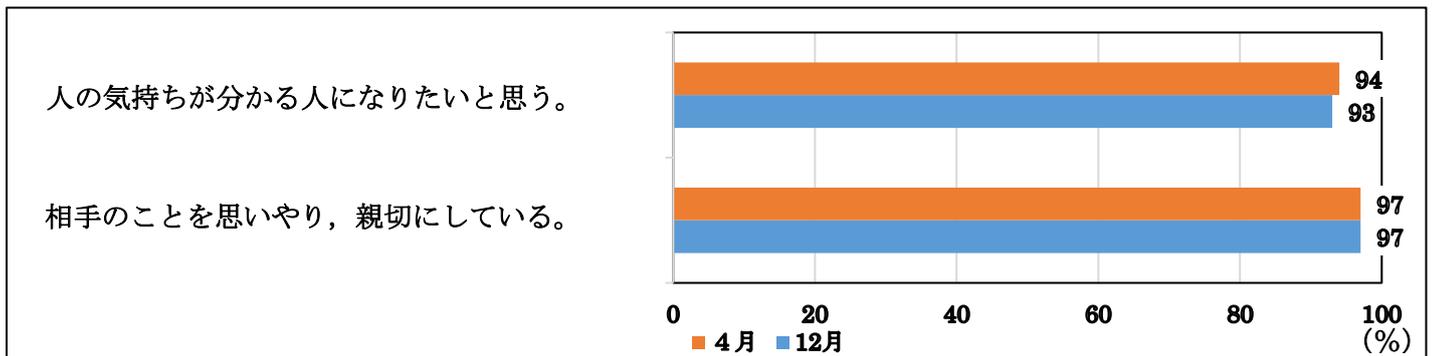
### (1) 児童生徒アンケートより

「道徳教育改善・充実」総合対策事業で指定校が実施する児童生徒アンケートにおいて、4月と12月の結果を比較した。(グラフ右の数値：肯定的回答をした児童生徒の割合)

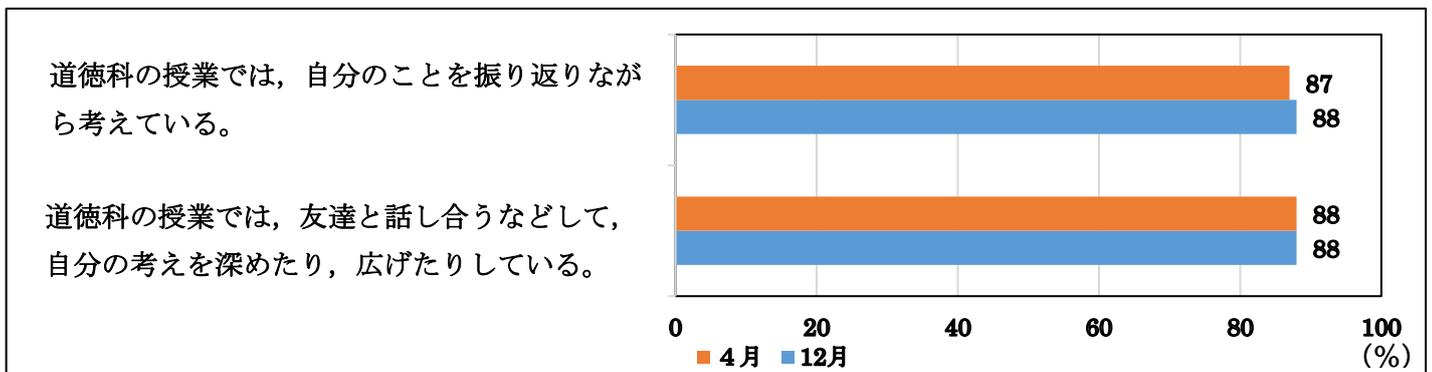
#### (ア) 自分の考え方や行動に自信が持てたか 「児童生徒の変容」



#### (イ) 自他ともに大切にしようとする気持ちは育まれたか 「児童生徒の変容」



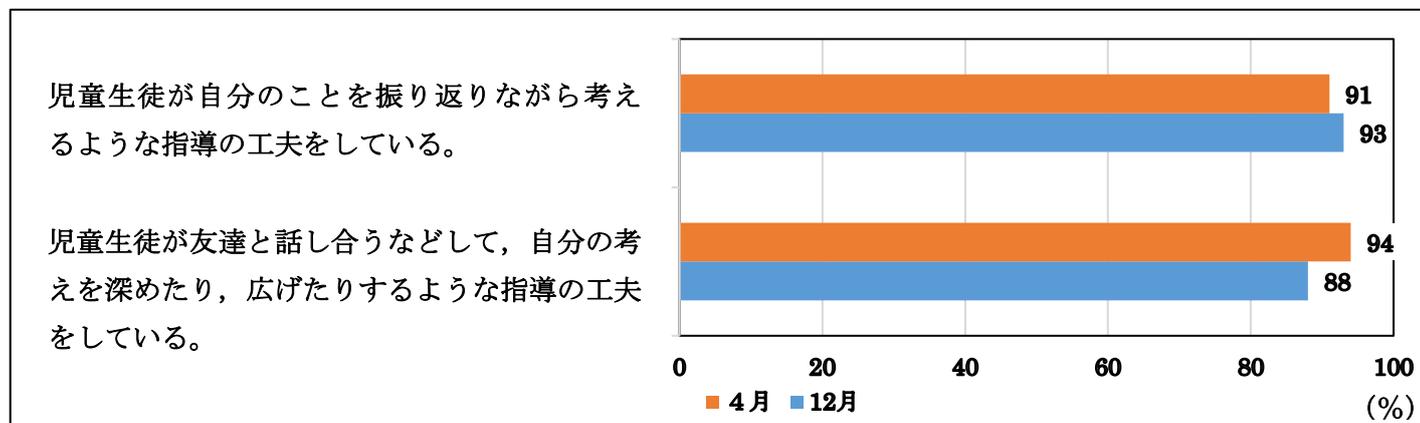
#### (ウ) 「道徳科の授業」における児童生徒の意識は変わったか 「児童生徒の変容」



## (2) 教職員アンケートより

「道徳教育改善・充実」総合対策事業で指定校が実施する教職員アンケートにおいて、4月と12月の結果を比較した。(グラフ右の数値：肯定的回答をした教職員の割合)

### (エ)「道徳科の授業」における指導の工夫 「教職員の変容」



#### <結果と考察>

- ① 意識調査の結果において、(ア)(イ)の項目で肯定的評価が84%を超えている。

自分の考えを明確にした上で、ペアやグループでの話し合いを毎時間仕組むことができた。その結果、児童生徒が授業で互に関わり合うことができた。自分も他者も大切にできる児童生徒の育成に向けて取組を進めたことが、高い数値の維持につながっている。

- ② 意識調査の結果において、(ウ)(エ)の項目で、児童・教職員共に肯定的評価が88%を超えている。

「道徳ノートを用いた自己の振り返り」、「ペアやグループでの話し合いを通じて考えを深める」取組が、校区小中学校で定着してきたことが、高い数値の維持につながっている。

- ③ 意識調査の結果において、(エ)の項目の「児童生徒が友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりするような指導の工夫をしている」で、教職員の肯定的評価が6%下がっている。

授業改善の取組を進める中で、教職員の授業に対する意識が高まった結果であると捉える。今後、話し合い活動に焦点を当てて授業改善を行っていく。

## 成果と課題 ○成果 ●課題

- 小学校では、休憩時間の遊びやボランティア活動等で同学年だけでなく、異学年間でも声かけをしたり協力したりできる児童の姿が日常的に見られるようになってきた。中学校では、合唱祭に向けた練習の際に、歌が苦手な友達に対して、相手を思いやりながら、課題を指摘したり、励ましたりできる生徒の姿が多く見られるようになってきた。
- 内容項目に係る各学年の指導目標を指導案に明示することで、小学校は中学校の指導内容を見据えて、中学校は小学校の指導内容を踏まえて授業実践することができた。
- 期待する児童生徒の変容（Before の姿と After の姿）を指導案に明示することで、授業のゴールイメージを明確に持ち、逆向き授業設計ができた。
- 道徳教育推進リーダーが、2つの小学校間で先行の授業の成果や課題を基に、成果や課題を整理し、次の授業実践の改善につなげることができた。また、授業後の記録シート（振り返りシート）や「小中連携道徳通信」を計画的に発行することで、道徳科における授業改善や研究の進捗状況を、校区内で共有することができた。
- 「特別の教科 道徳」の教科化初期段階において、小中学校ともに、教科書を用いた授業の発問例や教材・教具等の記録を残し、次の授業づくりに活用するベースができた。
- 研究仮説の、共感する力や思いやりの心、協力し合う態度、自己の生き方や人間としての生き方について考えを深めた児童生徒の具体的な姿を共有し、同じ視点で成長を見取る必要がある。
- 児童生徒の発言や道徳ノートの記述をもとに、「自分との関わりの中で深めているか」、「多面的・多角的な見方へと発展しているか」について各校で評価を進めたが、校区内での共有が十分できていない。指導と評価の一体化を進め、さらなる授業改善につなげていく。

### 【指導・助言者】

広島大学大学院教育学研究科 教授 宮里 智恵 先生

広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 大橋美代子 様

広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 渡辺 剛 様

広島県西部教育事務所 教育指導課 指導主事 安達 裕 様

江田島市教育委員会 学校教育課 主任指導主事 河野 諭恵 様

ご指導ありがとうございました。